

# 景気ウォッチャー調査

(沖縄地域)

2026年4月調査

## 【現状判断】

- ◆ 物価高や中東情勢の影響がみられたものの、観光需要を中心に景気は好調を維持。

## 【先行き判断】

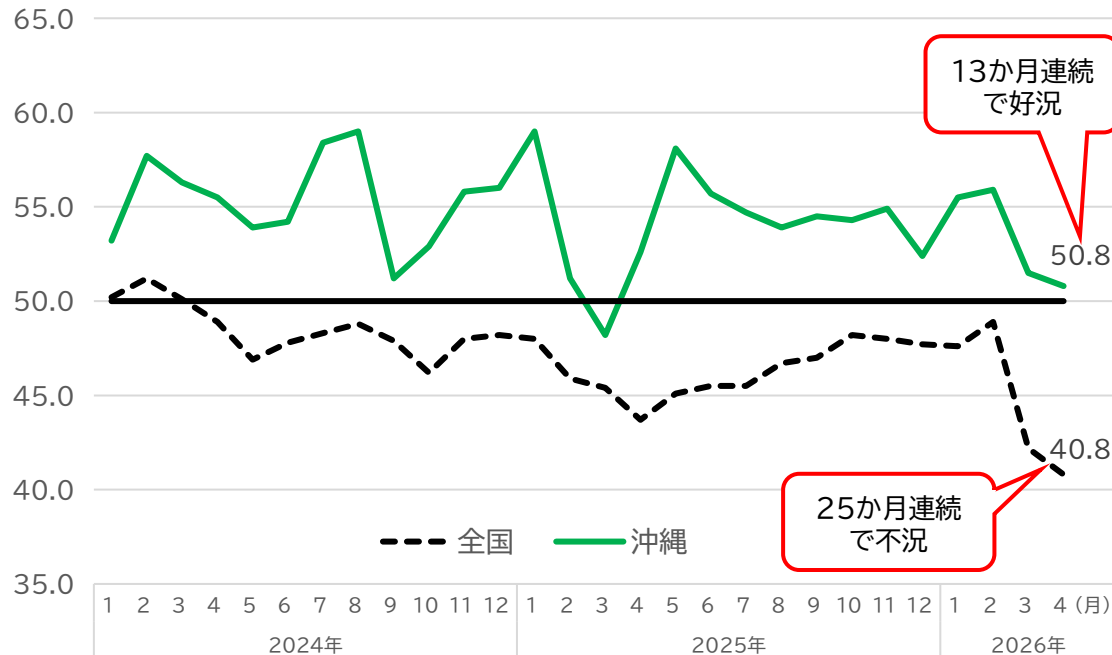
- ◆ 物価高や中東情勢による不透明感の影響で、4年8か月ぶりにDI値(47.8)が50を下回る。

※先行き判断DI値が最後に50を下回ったのは2021年8月

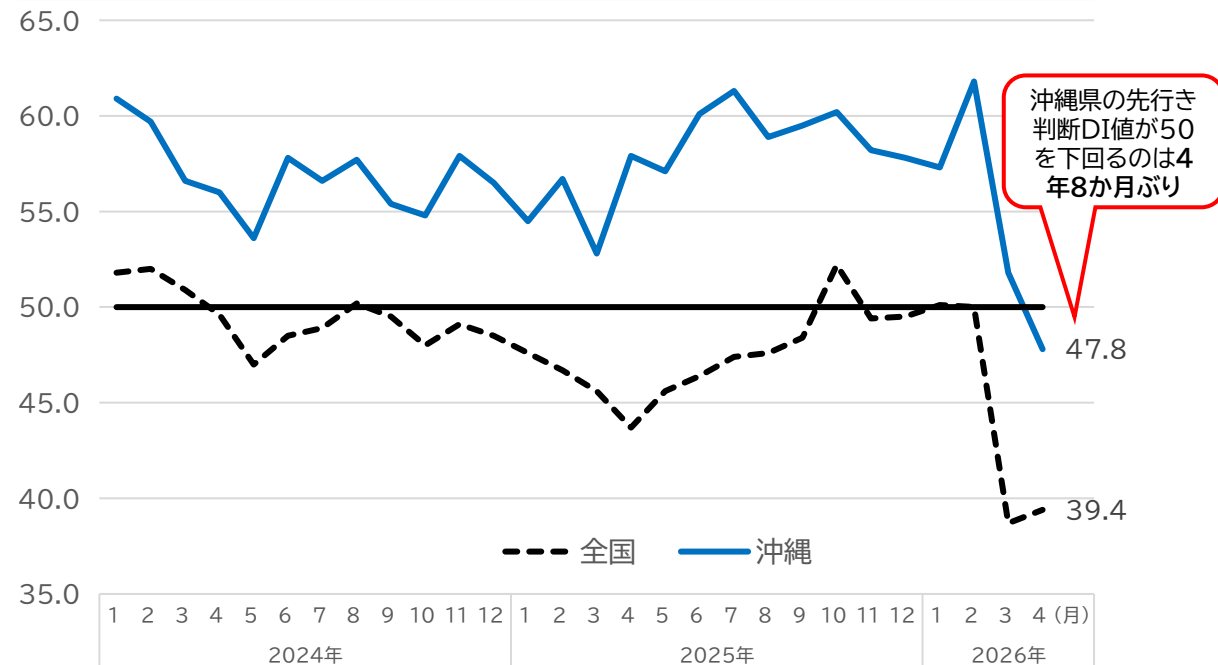
# DI値(季節調整値)の推移(2024年1月~2026年4月)

- 沖縄の2026年4月の現状判断DI値は**50.8**となっており、好不調の判断基準となる50を上回り、**13か月連続で好況を維持**している。他方で、全国は40.8と25か月連続で不況が続いている(図1参照)。
- 沖縄の2026年4月の先行き判断DI値は**47.8**となっており、2021年8月以来**4年8か月ぶりに50を下回り、不況の見通し**となった。全国は39.4と前月比で微増したものの、低水準が続いている(図2参照)。
- 沖縄県では現状と先行き共に、物価高や中東情勢による影響でDI値は前月比で減少となった。特に、先行きは50を下回っており、現状も50.8と予断を許さない状況となっている。

## 図1 現状判断DI値(季節調整)



## 図2 先行き判断DI値(季節調整)



# 現状判断のコメント（一部抜粋）

- 物価高や中東情勢の影響によるコメントが複数みられたものの、全体としては観光需要を中心に景気は好調と判断される結果となった。

（◎：良、○：やや良、□：不変、▲：やや悪、×：悪）

分野	業種	判断	判断理由
家計動向 関連	観光型ホテル	◎	4月の来客数及び稼働率が前年を上回っている。
	スーパー	○	物価高による選別消費はみられるものの、季節行事に伴う動きがより活発化している。生活必需品には慎重な一方で、清明祭や入学・就職祝いといった節目の行事には、高単価な重箱や関連商品の売行きが好調となっている。行事食を中心とした需要が景気を下支えしている。
	住宅販売会社	□	仲介物件への問い合わせや来客数は、3か月前と比べて大きな変化はみられない。また、物件価格の高騰により検討層の動きは慎重であるが、実需や投資需要は一定数存在しており、案内数も安定している。
	通信会社	▲	販売数が減少しており、購入のため来店する客も少ない状況である。
企業動向 関連	食料品製造業	○	一般消費が増加している。また、ホテルや土産物は引き続き好調に推移している。
	建設業	□	原油及びナフサの調達に懸念がある。資材の受注停止が発生しており、価格についても見通しが立たない状況である。
雇用関連	職業安定所	□	求人数は前年同月比で減少したが、求人者から人手不足の相談は多い。
	求人情報誌 製作会社	▲	4月はゴールデンウィーク直前であり、教育に時間を割けないホテルや飲食サービス業の求人募集は減少傾向にある。新年度採用も3月で終了しており、その影響も出ている。

# 先行き判断のコメント（一部抜粋）

- 物価高や中東情勢による不透明感から、先行きを不安視するコメントが多くみられた。

（◎：良、○：やや良、□：不変、▲：やや悪、×：悪）

分野	業種	判断	判断理由
家計動向 関連	コンビニ	□	物価高や原油価格の高騰など先行きの見えない不安から、消費行動の活性は引き続き期待できないとみている。
	乗用車販売店	□	中東情勢の影響により、客の購買行動に変化が出ないか心配である。
	観光型ホテル	▲	夏休みの予約状況が芳しくない。国内線の燃油サーチャージ開始などで外出控えムードが広がることを懸念している。
	スーパー	×	中東情勢の影響により包材関連が軒並み値上がりしており、1.2～1.5倍程度の価格上昇となっている。また、値上げにより入手困難なものもあり、余計な在庫を抱えることもある。電気・ガスの値上げや商品仕入価格が高騰する一方で顧客は節約志向に走っているため、明るい材料がないとみている。
企業動向 関連	広告代理店	□	原材料や人件費の高騰が続いているため、県内企業の販売促進費用が増加する見通しが立たない。
	建設業	▲	中東情勢の影響で資材不足が起きている。また、資材価格高騰により、見積額上昇の影響も発生しているため、早期の解決に期待したい。
	窯業土石業	×	中東情勢の影響による原材料価格の高騰及び供給停止・受注制限が製造に大きく影響し、受注工事も延期及び中止が懸念される。
雇用関連	人材派遣会社	▲	人手不足や物価上昇など、景気が良くなる見込みがない。

# <用語の説明>

## 景気ウォッチャー調査

- 地域の景気を観察できる立場にある人々から、統計指標だけでは把握できない顧客の様子など日々感じている街角の景気動向を迅速に把握するため、毎月実施されている調査。

## DI値

- 物価などの景気変動に関する複数の指標から、景気の方角性や各経済分野への波及度合いを示す。値が50を上回ると景気が好況傾向にあり、50を下回ると不況傾向にある。算出方法は、景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、DIを算出している。

評価	現状判断	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
	先行き判断	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらともいえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	現状・先行き 共通	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

## 現状判断(景気の方角性)

- 3か月前の景気状況と比較した、今月の身の回りの景気具体的な状況などの説明。

## 先行き判断

- 2~3か月先の身の回りの景気を今月の景気と比較した際の判断理由。

※本資料は、2026年5月13日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」をもとに作成しています。詳細な結果は下記URLからご確認ください。

<https://www5.cao.go.jp/keizai3/2026/0513watcher/menu.html>